

分校を

守る古木や

百日紅

岩澤 守晃



百日紅

樹上に猿の

腰掛けて

小林庸一



手荷物も

ほつと一息

百日紅

世木 裕子



今はもう

無住の寺や

百日紅

山口 信雄



渋滞の

窓に笑みたる

百日紅

原 八重子



見てみたり

猿のすべるを

百日紅

小松原和明



青き蚊帳

兄貴の足が

顔の上

青藤 正治



道しるべ

さがす八十路の

晩夏光

原澤 松乃



会いに行く

家咲き誇る

百日紅

渡辺 節子



及骨の

師の訃報知る

朝曇り

清水 桂子



訃報



冷房の
風になじめぬ
八十路かな
世木 裕子

冷房の
ひとときを忘る
老ゆる事
原澤 松乃

冷房の
リモコン操作
忘る夫
渡辺 節子

クーラーオン
タオルで包む
下半身
山口 信雄

七夕や
せかいへいわの
文字光る
斎藤 正浩

くちなしの
客もてなして
朽ちにけり
溝畠 和江

扇風機

手に町行くや

少女たち

岩澤 守晃



閉館の

岩波ホール

夏の果て

清水 桂子



生ビール

喜怒哀楽の

友なりし

原 八重子



扇風機

手に町行くや

少女たち

岩澤 守晃



閉館の

岩波ホール

夏の果て

清水 桂子



生ビール

喜怒哀楽の

友なりし

原 八重子



事もなく


過ぎし一日よ

冷奴

小松原和明




南風
お洒落ウィッグ
そよがせて
渡辺 節子




酷暑呼ぶ
日本列島
選挙戦
岩澤 守晃




花柚子の
揺れては光る
青嵐
小林 庸一



青嵐
身体の中を
吹き抜けよ
溝畠 和江



青嵐
至仏一山
揺らしけり
原 八重子



青嵐
地球の憂さを
吹き飛ばせ
世木 裕子



梅雨雲を

押し上げている

クレーン車

原澤 松乃



令和四年

空梅雨の空

真白なり

小松原和明

令和四年



団長の

長き鉢巻

青嵐

清水 桂子



ガマになほ

骨拾ふ人

慰霊の日

山口 信雄



ゴーゴーと

社揺するや

青嵐

斎藤 正治



麦の秋

輸出できな

ウクライナ

小林 庸一



空仰ぎ

背を伸ばすや

麦の秋

岩澤 守晃



麦秋の

揚げ物薄く

衣付け

渡辺 節子



きこえくる

麦の嘆きや

ウクライナ

世木 裕子



麦秋や

反戦叫ぶ

世界から

原 八重子



負ぶってた

兎もう古稀と云ふ

麦の秋

溝畠 和江



小津調の

昭和なつかし

麦の秋

山口 信雄



竿売りの

大きな財布

麦の秋

原澤 松乃



車窓より

今麦秋の

盛り見る

小松原和明



玉ねぎの

出来良し妻と

グータッチ

斎藤 正治



麦の秋

祖父の呼ぶ声

風に乗る

清水 桂子

オーイ



気掛かりの

ふたつみつあり

走り梅雨

世木 裕子



あとがきを

先に読む癖

走り梅雨

清水 桂子



葉を巻いて

いちご病みをり

走り梅雨

渡辺 節子



走り梅雨

切磋琢磨す

五七五

原 八重子



念のために

傘持たされし

走り梅雨

山口 信雄



研ぎ癖の

石のくぼみや

走り梅雨

原澤 松乃



空に咲く

泰山木の

雄姿かな

岩澤 守晃



茄子の花

箱入り娘

顔見せぬ

小林 庸一



しらさぎ俳句同好会令和4年5月前半作品 (兼題は「立夏」です。)

居酒屋の

ポニーテールや

夏来る

世木 裕子



酢のものの

塩梅よろし

立夏かな

清水 桂子



鉢植えの

一気に開き

夏は来ぬ

渡辺 節子



水満ちて

田んぼ目覚むる

立夏かな
原 八重子



捨てられず

また着る服や

夏来る
原澤 松乃



押し入れと

妻の格闘

立夏かな
小松原和明



子の字なき

後姉妹五人や

豆ご飯
溝畠 和江



つゞじ燃ゆ

心の芯も

燃えにけり
小林 庸一



鯉のぼり

地球のかなた

睨みをり
斎藤 正治



実梅もぐ

手に生き生きと

青き色

岩澤 守晃



思ひ出と

共に浸るや

菖蒲風呂

山口 信雄



しらさぎ俳句同好会令和4年4月後半作品 (兼題は「柳」です。)

釣り人の

影うらうらと

系柳

山口 信雄



人生の

しるべとしたき

大柳

溝畠 和江



風吹けば

風の意のまま

柳かな

渡辺 節子



風そよぐ

銀座八丁

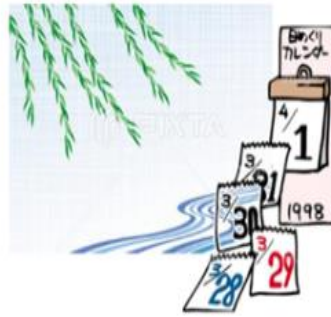
ゆれ柳
小松原和明



柳絮舞ひ

還らざる日々

遙かなり
岩澤 守晃



逆上がり

パパも頑張る

系柳
世木 裕子



池の端

やなぎ水面に

何語る
斎藤 正治



沼柳

ひねもす父の

釣り場かな

原 八重子



風に乗り

踊るやうなる

柳かな
原澤 松乃



花冷えや

声を限りに

無言館

清水 桂子



足元に

踏まれず生きる

董かな

小林 庸一



しらすぎ俳句同好会令和4年4月前半作品（兼題は「桜」または自由です。）

今更に

平和の匂ふ

桜かな

山口 信雄



萎えし身は

八分さくらを

見納めに

溝畠 和江



車椅子

肩にひとひら

さくらかな

渡辺 節子



咲くことの

かほどに待ちし

花なりき

小松原和明



老桜

ライトアップに

蘇り

岩澤 守晃



良い兵器

悪い兵器や

桜散る

世木 裕子



飯豊山

棚田の桜

寂しさう

小林 庸一



病む姉の

無言の帰宅

夕桜

原 八重子



父真似て

あぐらのをさな

花見かな

原澤 松乃



春昼や

風土記しるべに

蛇の池へ

清水 桂子



入園式

ひ孫に引かれ

ばあばかな

齋藤 正治



夏近し

素足で畳

確かめて

溝田 和江



夏近し

空の明度の

昨日今日

清水 桂子



見沼田の

準備万端

夏どなり

齋藤 正治



しらさぎ俳句同好会令和4年3月後半作品（兼題は「夏隣」又は自由です。）

白木蓮の

花の厚さや

雨の音

岩澤 守晃



春寒や

極悪一人

手に負えず

世木 裕子



木漏れ日の

細ききらめき

夏隣

山口 信雄



夏鬱な

世界を知らぬ

ひばりかな

原 八重子



揚げ雲雀

平和平和と

鳴いてるし

原澤 松乃



埼玉の

県花知りたり

桜草

小松原和明



ほかほかと

日向水木の

黄の小花

小林 庸一



しらすぎ俳句同好会令和4年3月前半作品（兼題は「日永」又は自由です。）

戦時下を

回顧し

日永語部に

清水 桂子

永き日や

孫遊び来て

持て余す

斎藤 正治

釣り人の

まはりぬき足

日永かな

原 八重子



にんにく灸

亡母の手欲しき

日永かな

世木 裕子



永き日を

うつらうつらの

妻八十路

山口 信雄



六地藏

なでて願掛け

日永かな

溝畠 和江



日の永し

はづむ余生を

楽しまん

原澤 松乃

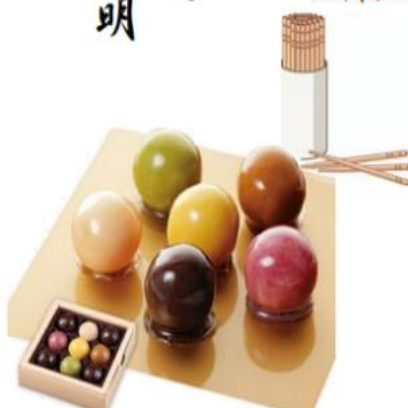


あんこ玉

楊枝でつまむ

日永かな

小松原和明



永き日の

何故か判らぬ

無力感

岩澤 守晃



磨崖仏頼の

辺りに

咲く堇

斎藤 正治



子の摘むを

摘むをやめてと

堇草

渡邊 節子



芭蕉碑に

すみれ寄り添ふ

雲巖寺

原 八重子



核の前に

揺るる平和や

凍て返る

山口 信雄



野に在りて

媚びることなき

すみれかな

溝畠 和江



すみれ咲き

卒寿の友は

シヤンソンを

清水 桂子



春風に

ゆらゆらゆれて

バス来たる

小松原和明



姉亡くす

夕轟や

春の星

岩澤 守晃



ドラマ見て

戦争を見て

春寒し

世木 裕子



観梅の

誰もやさしさ

影つれて

原澤 松乃



父植えし

红梅窓を

占めにけり

小林 庸一



しらさぎ俳句同好会令和4年2月前半作品（兼題は「椿」又は自由です。）

春の海

浅蛸に悩み

あるらしき

世木 裕子



背戸墓地へ

通ふ小径や

藪椿

山口 信雄



紅椿

愛づるや母の

独り言

原 八重子



春寒し

自助だけど知り

薬局へ

清水 桂子



自助です

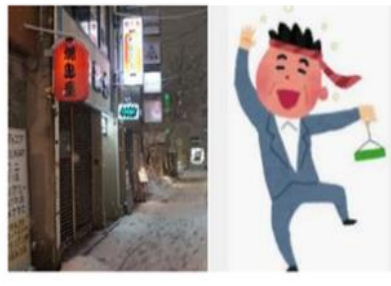


淡雪に

酔いし八十路や

千鳥足

斎藤 正治



鉢植えの

咲くを知らざる

八重椿

渡邊 節子



辛夷咲く

我懸垂し

天揺れる

小林 庸一



蓬草

母の笑顔

踏まぬやふ

小松原和明



フオーク聴く

ストーブの

上には薬缶

岩澤 守晃



口答え

する子も親も

風光る

原澤 松乃



出窓から

ジャズ聴こえて

日脚伸ぶ

溝畠 和江



しらさぎ俳句同好会令和4年1月後半作品（兼題は「寒雀」又は自由です。）

窓越しの

花と語らふ

寒すずめ

世木 裕子



電線に

おどる音符や

寒雀

山口 信雄



パンねだり

日向に弾む

寒雀

原 八重子



餌を食む

姿は青き

寒雀

岩澤 守晃



寒雀や

スカート丸く

子が座り

清水 桂子



ひだまりを

群れて飛び立ち

寒雀

渡邊 節子



小正月

町の鎮守へ

白き杖

斎藤 正浩



何をかな

群れてついでむ

寒すずめ

小林 庸一



飯粒を

綺麗に始末

寒雀

小松原和明

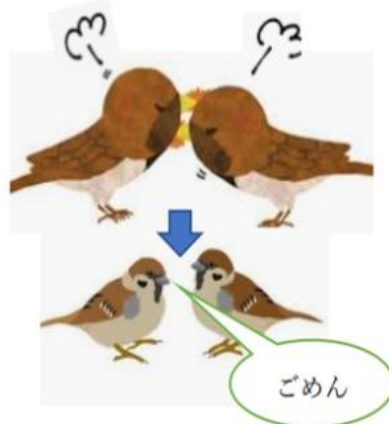


寒すずめ

兄弟喧嘩の

後始末

溝畠 和恵



着ぶくれて

山々ものを

忘れけり

原澤 松乃

